

地域特産化に向けた新野菜の導入支援

南部振興局農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

草津市野菜出荷連絡協議会は、北山田野菜生産団地を形成する3つの野菜出荷組合から構成される組織で、送風捕虫機による害虫生け捕り、栽培こよみの作成、新品種の試作等、野菜農家の経営安定と生産振興に係る活動を一体的に展開しています。

当地域では、みずなが年間の作付面積の3割を占めていますが、近年の全国的な生産量の増加から、市場価格は低迷傾向にあります。そのため、協議会では、新たな特産化を目指して各種の野菜を試作しています。その中で「わさび菜」が注目されていますが、市場関係者や消費者の認知度が低いため、販売量が限られるという課題がありました。

【普及活動の成果】

当課では、販売を担うJA草津市と連携し、「^{あいさいな}愛彩菜」(生産者が名付けたわさび菜の商品名)の調理例や栽培状況を掲載した量販店向けのPOP(Point of Purchase「買い物をする場所」の意)市場向けのPRポスター、店頭配布用のレシピの作成を支援しました。これらは、生産者が作成された専用の出荷箱や包装袋と併せて、新野菜の認知度向上に活用されています。さらに、市内量販店での試食販売会の実施を支援し、消費者へ直接PRを行いました。これらの活動の結果、市場でも販売に力を入れて頂くことができ、出荷・販売量の増加につながりました。

生産者は、自ら店頭に立って確かめた消費者の反応に手応えを感じ、生産拡大に意欲を高められています。当課では、引き続き認知度向上のために支援を行うとともに、需要増に対応できる生産体制を構築するため、栽培こよみの作成や部会化等に向けた支援も行っています。

また、協議会員が生産する「にこにこ菜」(体中菜の商品名)等の新品目についても同様の支援を行い、特産化につなげたいと考えています。



愛彩菜の荷姿



店頭配布したレシピ集



にこにこ菜のPOP